

第10回 苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 平成30年5月8日（火）18時～19時35分

【場所】 市役所本庁舎5階第2応接室

【出席】

▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 9名（12名中）

田崎会長、本間副会長、池田委員、大村委員、島崎委員、中村委員、藤岡委員、町田委員、渡部委員

▼事務局（市）

総合政策部 : 福原部長

まちづくり推進室 : 小名室長

スポーツ都市推進課 : 神保課長、畠山課長補佐、木村主査、戸澤主事、林川主事、浦主事、荒谷主事、佐藤恵主事

~~~~~議事内容（審議経過・意見・質問等）~~~~~

- 1 開会（神保課長）
- 2 総合政策部長挨拶（福原部長）
- 3 スポーツ都市推進課新任職員紹介
- 4 新任委員紹介

## 5 議事（進行：田崎会長）

※ 以下の質疑・意見については、▽は委員発言、▼は事務局発言。

### (1) 平成29年度スポーツ施策実施報告及び平成30年度スポーツ施策について（※事務局から説明）

- 推進計画に掲載している施策の平成29年度の実施状況と平成30年度の開催予定を説明（別添資料1～5ページ参照）

#### 【質疑・意見】

##### ▽本間副会長

資料5 ページ42番のアスリートフードマイスター養成支援について、アスリートフードメニューは、対象年代によって提供するメニューが変わってくることも考慮して実施するのか。

##### ▼事務局

対象年代によって必要となるメニューというのは異なってくるので、年代も考慮して実施していく予定である。

##### ▽池田委員

資料1 ページ10番のフライングディスク教室と2 ページ11番のボッチャ教室について、どういった競技になるのか。

##### ▽大村委員

フライングディスクはフリスビーを的となる円形の輪に5m、10mの距離から投げ込む競技となっている。ボッチャはパラリンピック競技にもなっているカーリングに似た重度の心身障害者向けの競技で、子どもから障がい者まで幅広く楽しめる。最初に的となる白い球（ジャックボール）を投げ込み、それに近くなるように交互に球を投げていく競技となる。

##### ▽渡部委員

1 ページ8番の八地区スポーツフェスティバルとはどのようなものか。

##### ▼事務局

市内を8つの地域に分け、各地域ごとに決定した軽スポーツの大会を開催する事業となっている。競技としては、主にウォーキングやフロアカーリング、パークゴルフが実施されている。

##### ▽中村委員

1 ページ7番のウォーキング事業の開催について例年とどう変更があるのか。

▼事務局

例年体育の日に金太郎の池で実施していたが、今年度はクルーズ船「飛鳥Ⅱ」が来港する10月14日（日）に港周辺で実施する。時間帯も例年は午前中だが、「飛鳥Ⅱ」の出航する時間帯に合わせて実施となる。

▽町田委員

資料1 ページ9番の指定管理者の自主事業の充実について、どういった事業になるのか。

▼事務局

市のスポーツ施設を管理している指定管理者が民間のノウハウを活かしながら実施する事業となっている。内容としては子ども向けの運動教室や大人向けのトレーニング指導等がある。

▽島崎委員

資料4 ページ39番のスポーツ指導者の育成について、少年団の指導は団員の保護者が担っている部分が多く、子どもの卒団に伴って辞めてしまう場合が多い。そうなるとう指導者の質の向上という面からも事業実施する必要がある。

▼事務局

指導者の育成については市も体育協会も課題であると感じており、同じような認識をしている。

(2) 今後のスケジュールについて（※事務局から説明）

- 次回開催は11月予定（10月に案内送付）

(3) 「苫小牧市スポーツ施策についての意見書」について（※事務局から説明）

- 意見書の提出について説明

## 6 意見交換（テーマ：スポーツの力を活かしたまちづくりについて）

(1) 大会・合宿誘致について

▽本間副会長

- ・合宿誘致においてはスポーツ施設と宿泊施設の移動距離もPR材料

となる。帯広の森運動公園の中には宿泊施設があり、一つのPR材料ともなっている。苫小牧市もサイクリングターミナルを有効活用してみるとよい。

- ・加盟団体から機材の所有状況で全道大会の開催地が固定化されているとの話があった。大会仕様の機材の購入に対する助成もあると大会誘致に繋がると思う。

#### ▽池田委員

- ・スポーツ大会・合宿等の積極的な誘致による経済活性化の効果は大きいと考えている。

#### ▽大村委員

- ・ピョンチャンパラリンピックの直前にアメリカチームが日本で合宿先を探していた経緯があったが、東京オリパラも近いのでパラ競技の合宿誘致も取り組んでいければよい。

#### ▽藤岡委員

- ・現在実施している合宿誘致補助事業は非常に有効であり、今後も継続して実施していくべきである。

#### ▽渡部委員

- ・緑ヶ丘公園内にスポーツ施設が集中しており、トップレベルの選手も使用しているような整備を実施し、合宿の誘致と市内競技レベルの向上を図っていくべきである。

### (2) 少子高齢化対策について

#### ▽本間副会長

- ・少子化の影響もあってか少年団の団員・指導者が減っている。アイスホッケーでも送迎の負担が多い等、環境面での支援策というものも必要である。

#### ▽中村委員

- ・勇払では大勢の高齢者がパークゴルフをやっている。高齢者が地域の方と支えあってスポーツをやっていく場は必要である。

#### ▽町田委員

- ・スポーツは誰もが心身の健康を目的に取り組むべきものである。少

子高齢化を見据えた時に若年層よりも高齢者を対象とした事業を展開するべきである。

- ・自分のペースでストレッチやトレーニング等の簡単な運動ができるような施設を整備することやコミュニティを作ることが高齢者を運動させるには重要である。

- ・医療の世界では理学療法士や介護予防運動指導員のようなプロの指導を受けて健康維持ができるような取り組みが必要である。

#### ▽渡部委員

- ・今後は40～50代以上が増加してくるので、シニア世代をやる気にさせるスポーツ大会が必要であると考えます。

### (3) 他産業との連携について

#### ▽田崎会長

- ・スポーツに関する情報が一つに集約できるようなハードの基地やウェブサイトを構築し、公共施設やスポーツ施設で発信できるようにすればよい。

- ・観光客や旅行者にスポーツを体験してもらいスポーツツーリズムを推進し、地域経済活性化や人の交流を図るべきである。

#### ▽池田委員

- ・スポーツをするだけでなく、他産業との連携や地域全体でスポーツを支える仕組みによって新しい形の産業や市場を形成できる。

- ・トップアスリートでも仕事をしながらスポーツを続けるのは難しく、環境の整った都市部へ集まってしまう場合が多い。スポーツ選手の雇用環境を整え、地域への定住促進を図るのは人口減少の面からも重要である。

#### ▽藤岡委員

- ・本市は全国トップレベルのアイスホッケータウンで、小学校が7月、高校が8月、大学が9月に国内トップレベルの大会を実施している。苫小牧でホッケーをやりたくて中学・高校から本市を訪れている人も多く、移住対策や空き家対策にも繋がるため、より積極的なPRが必要である。

- ・昨年11月に観光協会で首都圏に観光PRに行った際にスポーツ体験を実施し盛況であった。また、最近のカーリング人気で本市でもカーリング体験の申込みも結構来ており、もっと観光客へのスポーツ体

験をPRした方がよい。

▽渡部委員

・地元根ざした人気スポーツクラブがあるので、子どもも大人も共に楽しめる練習や教室を誘致できたらよい。

(4) 指導者育成

▽大村委員

・障がい者スポーツにおいては指導者不足というのは重要な問題となっており、本市は特に道内の同規模自治体と比べても圧倒的に少ない。

(5) スポーツとのふれあいについて

▽田崎会長

・スポーツイベントは学生の社会教育を受ける機会となるだけでなく、その後の地域の担い手育成にも繋がっていく。

▽大村委員

・本市の出身者もいるパラアイスホッケー日本代表は平均年齢が高く、下から育ってくる選手も少ない。過去にスケートまつりの一環として実施したこともあるので、今後も実施してほしい。

▽島崎委員

・スポーツにふれる子どもが少なくなったという観点から、競技以外でも市のスポーツ施設を子どもが利用できる取り組みがあつたらよい。近隣の学校が緑ヶ丘公園陸上競技場で運動会や体育祭をやっているのので、遠方の学校にも波及させていくような展開ができるとよい。

▽中村委員

・イベント運営に携わるようになって、イベントでの人集めは本当に難しいと感じている。特に、子どもは土日に部活動がある場合が多く、大人も子どももいかに普段スポーツをやっていない人を取り入れたイベントを身近にさせられるかというのが重要である。

・健常者と障がい者のスポーツのあり方を理解して多くの人がスポーツにふれてほしい。

## 7 その他

- ネーミングライツによるダイナックス沼ノ端アイスアリーナへの名称変更について説明

## 8 閉会（神保課長）